

平成27年度「研究大学強化促進事業」フォローアップ 進捗状況概要 東京工業大学

目的

長期的目標

「2030年を目処に世界のトップ10に入るリサーチユニバーシティを目指す」

＜研究力強化の方針＞

国際共同研究の促進 + 国際的な研究環境整備

①強い分野をより強く ②次世代分野の育成 ③基礎的基盤的な分野の維持

★ 研究力を強化し、世界トップクラスの研究を通じた教育の実施



ウブサラ大学との合同ワークショップによる国際展開

これまでの実績・進捗状況

＜国際共同研究推進＞

◆ 教員の海外派遣、海外研究者招へい
⇒ 国際共著論文比率上昇↑

＜強い分野を伸ばす＞

◆ WPI拠点「地球生命研究所」、
元素戦略研究拠点、COI拠点を育成支援

＜研究の質の向上＞

◆ 引用度TOP10%論文の割合は低下気味↓
⇒ 研究改革・人事制度改革に着手

＜国際的な研究環境整備＞

◆ 英語での執務環境整備・外国人研究者への研究支援・生活支援
⇒ 外国人教員比率も増加↑
◆ 国際研究広報に取り組み、英文情報発信を強化

＜人事制度改革＞

◆ 年俸制、クロスアポイントメント制度を導入
◆ 大学全体を俯瞰する人事戦略策定を可能とするため
全学的組織である人事委員会(議長:学長)を設置(平成27年4月)

今後の課題と展望

達成度評価の導入
「年次進行」⇒「何をどれだけ学んだか」
国際通用性を見据えた教育体系へ

教育改革

3学部・23研究科、6研究科・45専攻
⇒ 6学院+教養教育組織へ
全科目へのナンバリング
⇒ 学士・修士課程、修士・博士課程
を一貫した体系的な教育システム構築
クォーター制の導入

➢ 教員人事ポイントの全学管理
➢ 全体の30%を学長裁量ポイントへ
➢ 学長裁量スペースを2倍に

学長裁量の資源を飛躍的に増強

ガバナンス改革

研究改革

世界の研究ハブへ



平成28年4月～

これらの改革を強力に進め、世界トップクラスの研究を通じた教育を実施しうる体制を構築

フォローアップ結果

評点区分：おおむね順調に進んでいる

全体を通じた所見

○ 学修・修博一貫教育などの教育改革、世界の研究ハブを目指した研究改革、教員ポストの全学管理などのガバナンス改革を一体的に推進するなど、新たな体制整備の導入期であり、これらがおおむね順調に進んでいることが確認された。今後、これらを通じた成果の創出を期待したい。

特に優れた点

○ 教員ポストの全学管理のため、人事委員会を設置し、人事の刷新に取り組んでいる点は組織のメリットを生かした工夫といえる。今後の実効的な取組を期待したい。

期待する点

○ 体制の整備に尽力されているが、今後は、これらを基盤として、研究、教育における外国人教員(本務者)、留学生、女性教員、若手教員等の比率増の実効的な取組を期待する。

○ 今後、計画されている URA を含めた研究支援の仕組み・体制などについて、更なる充実も含め、検討・早期の実現を期待する。

○ 外国の大学とのベンチマークについては、多数の具体的な指標のデータ比較などを含め、更に検討することが望まれる。